

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 89

今月のテーマ

米寿を超えた“生活知恵袋” 回想と自問自答

米寿とはいっても88年ではなく、88回だからバカなことを言うなと言われそうだが、88回（7年超）の連載は決して短くはない…。♪思えば～遠くへ～来たもんだ～♪

この間、休刊したのは東日本大震災直後の1回のみで、この「生活知恵袋」コーナーへの寄稿は一度も穴を開けたことがない。そういえば病気を患い、入院中のベットの上で原稿を書いていたこともあったなあ…。

そもそも、何故にこの「エー・クラス」への寄稿が始まったのか？それは、某銀行の弊社の担当者（今は〇〇支店長）が、取引先のとある会社がまもなく創刊する情報誌に寄稿してもらえる専門家の人を探しているとのこと。そこの社長と会って話を聞いてくれないかということで、いざご対面と相成ったのである。その社長は、この情報誌を通し“秋田を元気にしたい”と言う。私も秋田に対するそれなりの思いがあったし、その思いに共感し寄稿を引き受けたのが始まりだ。

私が子供のころは、宿題の中でも作文が最も嫌いだったのに、人生何が起きるか分からないものだ。天敵の“たくあん”は今でも嫌いなままなのに、飽きもせずによくもまあ書き続けて来られたものだ…。

嫌いだった宿題の作文と「生活知恵袋」の執筆の違いを改めて考えてみたら、決定的な違いがあった。宿題の場合、殆どはテーマなどを与えられ、興味が或る無いかかわらず書かなければならなかった。それに対し、「生活知恵袋」の場合は、思っている事・伝えたいことを書くという決定的な違いがある。一回の原稿の文字数は約4000字前後、原稿用紙10枚分にもなる。それが88回だから原稿用紙880枚に上る。よく続いたものだ。

先日、弊社に来訪された「生活知恵袋」のファンだと言う某氏に、これまでのバックナンバー全部をまとめた本を出版したらどうかという有難いお言葉を頂戴した。貧乏暇なしの日々を送る中で、そのエネルギーは持ち合わせていないが、過去88回のバックナンバーは、その全てが弊社ホームページで閲覧できるので参考にさせていただければ幸いだ。

さて、88回の連載は皆様の暮らしの中で「生活の知恵袋」としての“役割を果たせていたのか”これを機に振り返ってみよう。



生活の知恵とは
一口に生活の知恵と言っても、洗濯や掃除をする際の知恵、料理を美味しく作るための知恵など、様々な分野があることは言うまでもない。そのどれもが大切であり、大きな意味を持つことには違いないが、FP（ファイナンシャルプランナー）の関わる生活の知恵は、その多くが経済的（お金なこと）に大きな意味を持つ。
お金に固執するつもりはないが、それに関する情報があつて、いかに利用するかの知恵を持つことは、それぞれの家計に極めて大きな効果と影響をもたらす。大袈裟と思われるかもしれないが、それを知る者と知らない者、その情報を使う者と使わない者との差は無限度に広がっていくと言つても過言ではない。世の中が成熟し、巷には物も情報も溢れている。それらは私たちの暮らしを便利で快適なものにし豊かさをもたらしている。皆さん、ここで少し立ち止まって考えてみてほしい。私たちの暮らしにもたらされたのは、豊かさだけだろうか？豊かさの陰には家計支出の増大があり、便利さの陰にはシステムの複雑化と同時に分かり難さの増大がある。ぶっちゃけた話、面倒くささも増大しているのではないだろうか…。
電化製品にしても金融にしても、進歩に伴う便利さや快適さをMAXで実現させるためには、それなりの情報・学習・訓練が必要になってくる。であれば、努力をする者としらない者との結果には、当然に格差が生じてくる。だが、それぞれの生活環境によって、入ってくる情報量も対処できることも



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかず)
株式会社トータルライフサポート 代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか!?”

- ◆ 保険の見直しを検討している
- ◆ 加入している保険が本当に良いかわからない
- ◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
- ◆ 将来の子供の教育費が心配

相談は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
秋田支店

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間 / 9:30～19:00
● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

● 紳士服のコナカ
● エネオス
● すずきクリニック
● 当店
● マクドナルド
● かんきょう

洋服の青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

異なってくる。それらの機会は平等に提供されていることが望ましいが、必ずしもそうではない。仮に目の前にあったとしても、それを理解し活かすことが出来て、なんほ“なのである。

● 格差社会を乗り越える

人類・人間社会は、その進化とともに様々な格差も登場させてしまった。格差社会と言っても分野は実に様々で一口には片づけられない。地域格差、情報格差、教育格差、所得格差など、上げたらきりが無い。

所得格差は教育の機会に影響を及ぼし、教育格差は所得の格差を招いたり、多くの場合で負の連鎖を招いてしまう。秋田県に於いても様々な格差が存在するが、何とか乗り越え負の連鎖を断ち切りたいものだ。

格差や負の連鎖を埋めるためには、有益な情報の入手と活用は不可欠だ。インターネットをはじめ、情報は山ほどある。その量の多さは私たちが判断する上での選択肢を広げてくれそうなものだが、必ずしも良い結果を招くかというところでもなく、時として邪魔をすることさえある。また、すべての情報が正しいとも限らない。山ほどある情報の中から有益なものだけを抜き出さなければならぬ。多すぎる情報は、面倒くさいと放り出してしまっケースも招くようだ。

情報の入手先や入手方法、そしてその中からどう選別するかは、明暗を分けるくらいに重要だ。なぜなら、同じ情報を探しても悪意のあるものや間違ったものも少なくないし、選択如何で全く別の結果を招いてしまうこともあるからだ。多すぎる選択肢は、結果として合理的な判断を邪魔する可能性もあるし、むしろ思考停止の状態に陥ったりと、非合理的な行動に走らせてしまう恐れさえある。

格差社会を乗り越え、より良い暮らしを手に入れるためにも、改めて情報との付き合い方や情報社会の歩き方を考えねばならない。この「生活知恵袋」が、読者の皆さまの暮らしや経済で正しい判断ができるよう今後とも精進したい。

● 情報を発信する側の役割

発信される情報は、時としてそれを見る人・聞く人の人生を左右しかねない。それだけに、この「生活知恵袋」を発信する側、筆者としての責任の重さを痛感し、文脈や表現の一言一句には、神経を使っている。編集部からは、毎月のテーマや原稿内容も任せられているため、好き勝手に書かせてもらっているが、それはそれでプレッシャーでもある。唯一守らなければならないのは原稿の期限であるが、ある意味これが一番つらい…。書くほうは好き勝手に書いていても、読者の皆さんは、それぞれに年齢・性別、生活環境や考え方も違う。記事の内容は偏らないよう注意はしているものの、100%中立的な表現は存在しないし、中立を意識しすぎると、これまた何も書けなくなってしまう。思いの丈を好きに書いて良ければどだけ気が楽なことか…。これでいて、結構気を使って書いているのであるが、読者の皆さんはどう受け止めてくれるのだろうか…？

話は変わって、某テレビ局の朝ドラで、と〇姉ちゃん”と云う番組が10月1日で最終回を終えた。現存する雑誌「暮らしの手帖」をモデルとしたもののようにだが、原稿を書く身として、これまでの朝ドラとは別の視点で見ていた。

「暮らしの手帖」は戦後復興とともに昭和から平成へ、混乱する時代を乗り越えてきた。今日まで続いて来たのは偶然などである筈がない。私などが評論すること自体がおこがましい限りであるが、あえて言わせていただければ、そこにあった情報の価値も然ることながら、それを裏打ちしているぶれない理念が、読者に支持され暮らしに根差し、社会に影響を与え続けて来たことには違いないであらう。

番組の中でも、ペンの持つ力の大きさと同時に、ペンがもたらす怖さが表現されていた。田舎のブレスリーならぬ”つばやきがんちゃん”が、88回”ときで米寿などとうつつを抜かしている場合ではないのだ。少しでも長く、皆様のお役に立てるよう日々精進し続けることを、改めて肝に銘じなければならぬ。

● 今後の生活知恵袋を展望

情報はただそこに存在するだけでは、必ずしも価値を持つわけではない。その情報が客観的に有益で正しくあるのは当然ながら、その情報が活かされて、なんほ“なのである。だとすれば、「生活知恵袋」の名のとおり、情報を生かすための知識や知恵、それがどういう意味を持ち、皆様の暮らしにどう貢献できるかを示さなければならぬ。

くどいようではあるが、いかに情報を入力し、それをいかに活用するかが重要で、行動を起こすためには意識が変わらなければならない。世の中には分かっているけれども出来ないことが山ほどある。タバコが健康に害を及ぼすこと、休肝日を設けたほうが良いこと、貯蓄もしなければならぬこと、住宅ローンの見直しが必要なこと等々、♪分かったやあいるけど♪、という具合だ。

「生活知恵袋」での情報もしかり、いつも大変ためになっています”との有難いお言葉も頂戴するが、分かった分かったで終わってしまえば、絵に描いた餅”になってしまう。情報提供者として、その情報が活かされるよう願って止まない。理解していただくというよりは感じていただきたい。そのためにも優しい解説であるべきだし、つまらないより面白いほうがいいし、何より”我が家でもやってみようか”という興味を持ってもらえるような記事にしていきたい。

情報活用する皆さんにしてみれば、その全てを自身で完結させることが難しいこともあるかもしれない。そんなときは、人の手（専門家）を借りたらいだけの話だ。かくいう私も、いつでも皆様の暮らしをお手伝いしたいと考えているし、一緒に将来を考えていきたいものだ。

● 来月号は…

何にしようか…。読者の皆様で取り上げてほしいことがあったら是非お声をかけてほしいものだ。最近、教育資金の調達に関する相談も多くなっているの取り上げてみようかなあ…。考え中です。